

甲斐市立竜王小学校 自己評価書

令和5年2月6日（月）作成

校長 「 進藤 雅一 」

記述者 職名 教頭 「 平沼 公香 」

学校教育目標 「明るく元気な竜の子」の育成

- ・ た ・ ・ ・ 助け合う子ども ・ ・ ・ ・ ・ (情)
- ・ つ ・ ・ ・ 強い心を持った子ども ・ ・ (意)
- ・ の ・ ・ ・ 伸び行く体の子ども ・ ・ ・ (体)
- ・ こ ・ ・ ・ 根気強く学ぶ子ども ・ ・ ・ (知)

学校経営方針

- (1) 教職員の英知と和を結集し、学校教育目標の具現化に努める。
- (2) 児童一人一人の自己実現を目指す学校づくりを推進する。
- (3) 研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりを推進する。
- (4) 特色ある学校づくりに努める。
- (5) 安全・安心な学校づくりに努める。



1 全体評価

本校の学校評価は、次の7観点で行っている。

- I 学校教育目標・学校経営について
- II 学校運営について
- III 学習指導について
- IV 生徒指導について
- V 地域との連携について
- VI 学校の特色に関して
- VII 創甲斐教育について

また、教職員自己評価及び保護者用アンケートのそれぞれの設問は、右のような5段階評価で、小学生用アンケートについては4段階評価で行っている。教職員自己評価においての「E：わからない」については、担当外の場合のみつけている。また、年1回の実施のため、昨年度の結果を踏まえながら検討している。

5段階評価〈教職員・保護者〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）
- E：わからない（紫）

4段階評価〈小学生〉

- A：とてもそう思う（青）
- B：そう思う（オレンジ）
- C：ややそう思う（黄）
- D：そう思わない（緑）

（1）教職員自己評価について

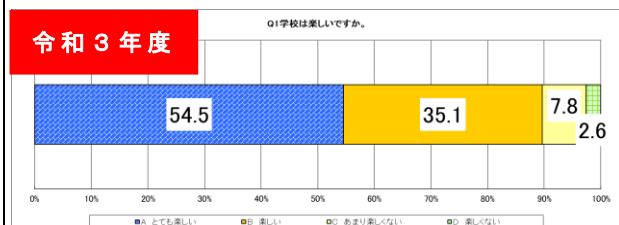
「すべては子供の幸せのために」を合言葉に、校長を中心に学校教育目標の具現化を目指し、「チーム学校（チームドラゴン）」として協働し、研鑽を積んできている。学習規律「明るく元気な竜の子 15 箇条」を基盤とした授業改善や生活指導が、教職員が入れ替わっても安定して実践できるように、共通理解を図るための研修を行っている。6年間を見通した指導を目指し、全職員で全校児童のいのちを育み守るため、組織的な指導を行い、児童の落ち着いた学校生活につなげられるよう努めている。

今年度の教職員自己評価では、すべての設問で「A+Bの肯定的評価」が90%以上となり、教職員が日々、子供たちのために誠実に職務に専念している姿勢が表れている。



（２）小学生アンケートについて

「学校は楽しいですか。」の肯定意見が昨年度より 6.9% 増え、96.5% となり、多くの児童が学校生活を楽しんでいる。児童へのきめ細かな支援と学級集団づくりに加え、環境要因として、コロナ禍の制限ある生活から少しずつ活動の許容範囲が広がってきていること、また、創立 150 周年記念事業で中庭を整備したことで、思い思いに楽しめる空間ができたことが考えられる。今後も児童一人一人に対する日常的な見取りや Q U 調査、学級力向上アンケート等により、きめ細かな指導を継続していく。

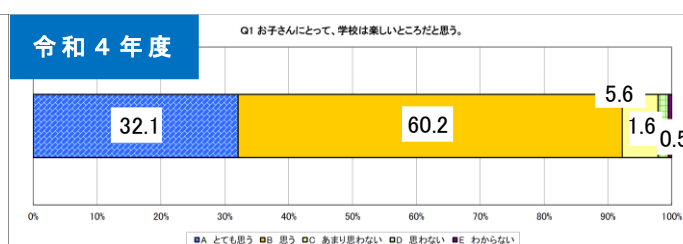
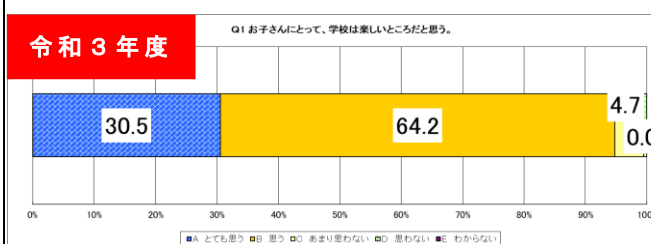


Q 学校は楽しいですか。（児童アンケート）

（３）保護者アンケートについて

「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見 92.3% だった。昨年度までと同様、学校に対して好意的な評価であることがわかる。

一方、C・D・E が増加していることに関して、「お子さんの仲のよい友だちを知っている」「お子さんは、困ったことがあった時に相談などのできる友達がいますか」「P T A 活動に参加していますか」「学校(学年・学級)だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」の回答が昨年度よりも増加しているのに比べ、学校の各種指導に関する肯定的な回答が減少している傾向が見られる。



Q お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。（保護者アンケート）

2 観点ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標・学校経営について

（１）達成状況について

学校教育目標や学校経営について、全員の教職員が肯定的な意見であり、高い数値が見られている。学校教育目標をもとに学校教育活動がなされ、一定の成果を得ているという実感があるものと考えられる。

一方、昨年度と同様に、一人一人の教職員の PDCA サイクルによる教育活動の推進、特別支援教育の体制整備と機能化において、A の回答率が低くなっている。質の向上を求め、評価意識が高まってきているため、評価が厳しくなっていると考えられる。

番号	I 学校教育目標・学校経営について	令和3年度				令和4年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている。	72.7	27.3	0.0	0.0	53.1	46.9	0.0	0.0
2	あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。	78.8	21.2	0.0	0.0	62.5	37.5	0.0	0.0
3	あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。	72.7	27.3	0.0	0.0	56.3	43.8	0.0	0.0
4	あなたは、PDCAサイクルを生かした、教育活動を行っている。	60.6	39.4	0.0	0.0	34.4	65.6	0.0	0.0
5	あなたの学校は、特別支援教育の体制が整い、機能的に行われている。	66.7	33.3	3.3	0.0	51.6	48.4	0.0	0.0
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目							
		←2年連続でAの回答率が下がっている項目							

(2) 改善策について

- ① コロナ禍の体制から、少しずつ元の活動に戻しつつある中で、行事の精選や改良、教育課程の見直し、納得のいく形に収まりきらなかったところがある。新学習指導要領で求められるカリキュラム・マネジメントについての全教職員への理解を、研修などを通して深めていく。これまでもPDCAサイクルを活用しながら効果的・効率的な学校経営や教育活動を目指した改善を図ってきたが、今後も各自が継続的に取り組めるよう、具体的な目標設定を行っていく。
- ② 引き続き、多様な子供たちを誰一人取り残すことがないように、特別支援コーディネーターを中心に、校内支援委員会やケース会議の効果的な運用に努める。本校の体制は整っているものの、配慮を必要とする児童の割合の多さから、体制を生かしきれない状況があり、学級担任の負担感が大きかったと推察する。限られた教職員の中で、全校体制でより効果的な支援体制が組めるよう、一人一人の子供たちのニーズに応じた合理的な配慮とその指導法について、引き続き教職員間での情報共有と対応策に関する検討を重ねていく。

II 学校運営について

(1) 達成状況について

すべての項目において肯定的な回答であり、多くの教職員が学校運営に主体的に関わっているといえる。設問1に関しては、毎回の訓練を生かして自覚が高まったことが実感できている。危機管理マニュアルの見直しにも繋がっている。

一方、昨年度向上した設問3・4において、Aの回答率が低くなっている。本年度、教職員が感じている目の前のことに追われているという多忙感からくるものと考えられる。2学期後半より、学年間での打合せや業務の調整を進めてきているが、今後、年間行

事の配置を含め、さらに改善する必要がある。これまで同様、「チームドラゴン」として管理職や他の教職員とコミュニケーションをとりながら協働することを大切にしてい
く。また、働き方改革については、校務支援システムの活用を広げられるよう、教務主任を中心に進めてきている。今後は活用方法を定着させていくことにより、改善を実感できるようにしていく。学校徴収金について、昨年度より口座振込になり、集金業務の効率化を図ったが、滞納する家庭は減らないため、窓口での作業は減っていない。また、新規登録は、学校でのデータ入力のため、年度末の登録作業は必要である。口座登録依頼と督促業務については今後も改善策を講じていく。

番号	Ⅱ 学校運営について	令和3年度				令和4年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している。	39.4	60.6	0.0	0.0	40.6	59.4	0.0	0.0
2	あなたは、個人情報保護・情報セキュリティの観点から、諸表簿や文書、記憶媒体を適切に管理・活用している。	78.8	21.2	0.0	0.0	71.9	28.1	0.0	0.0
3	あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。	81.8	18.2	0.0	0.0	65.6	31.3	0.0	0.0
4	あなたは、職務上「報告、連絡、相談、確認」を行っている。	81.8	18.2	0.0	0.0	78.1	21.9	0.0	0.0
5	あなたは、校内研究（研修）に主体的に関わっている。	46.9	53.1	0.0	0.0	43.8	53.1	3.1	0.0
6	あなたは、校務支援システムを十分活用できている。	51.5	45.5	0.0	0.0	28.1	65.6	6.3	0.0
7	あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。	42.4	57.6	0.0	0.0	31.3	65.6	3.1	0.0
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目							
		←2年連続でAの回答率が下がっている項目							

（２）改善策について

- ① 日々の教育活動において「危機管理マニュアル」の活用と改訂を行っていく。教職員に対する「危機管理マニュアル」の周知や訓練の実施を的確に行う。保護者アンケートでの「学校は安全管理に注意をはらっていると思う」の回答が低いことから、家庭への発信を工夫する。
- ② 教職員による校内研究では、ICTを活用して、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業研究を行ってきた。今後は、教職員一人一人の日々の教育活動につなげ、さらなる指導力向上につなげていくため、校内研究での取組を各学年・学級で具現化して取り組んでいく。主体的・対話的で深い学びの実現に向け、今後も授業改善を進めていく。

Ⅲ 学習指導について

(1) 達成状況について

多くの項目において昨年度と比べて肯定的な評価は変わらないが、B評価の値が高くなっている。本校では、経験豊かなベテラン教員とやる気に満ち溢れる若手教員が学年内で協働し、授業力向上に努めている。校内研究を軸に、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTを効果的に活用した授業づくりについても、模索してきているが、教材研究の時間の確保が課題となっている。

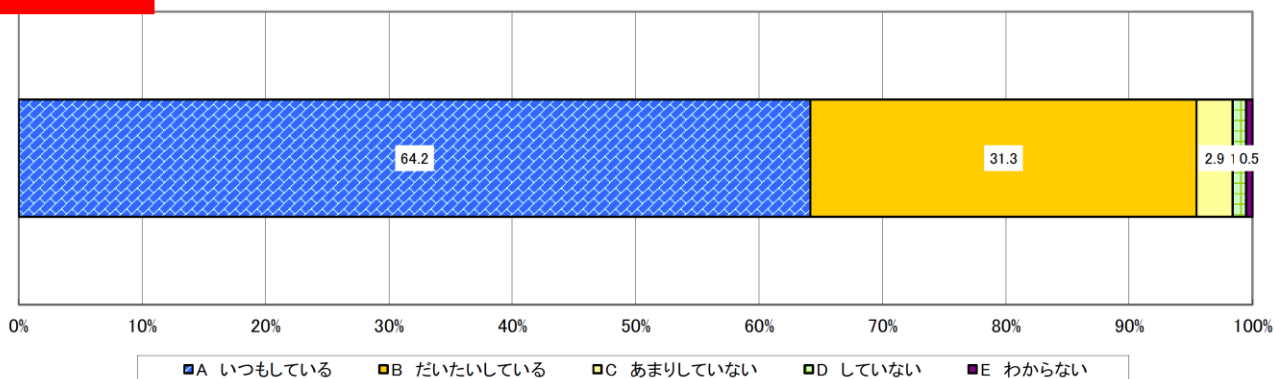
本校が取り組む「学習規律」や「ほめ言葉のシャワー」をはじめとする学びに向かう姿勢づくりについては、教職員一人一人が意識しながら取り組んできているが、改善が必要であるという意見が生徒指導の話題の中で出てきている。児童の実態に合わせて検討していく時期になっていると考えられる。

番号	Ⅲ 学習指導について	令和3年度				令和4年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている。	57.1	42.9	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0
2	あなたは、個に配慮した基礎、基本の定着を図る授業を行っている。	67.9	32.1	0.0	0.0	40.0	56.0	0.0	0.0
3	あなたは、指導と評価の一体化に努めた授業を行っている。	46.4	50.0	3.6	0.0	32.0	68.0	3.6	0.0
4	あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。	55.6	40.7	3.7	0.0	36.0	64.0	3.7	0.0
5	あなたは、協働的な学びを取り入れた授業を行っている。	50.0	50.0	0.0	0.0	37.5	62.5	0.0	0.0
6	あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている。	50.0	50.0	0.0	0.0	30.4	60.9	4.3	4.3
7	あなたは、思考力・判断力・表現力を伸ばすような問題解決型授業に取り組んでいる。	48.1	51.9	0.0	0.0	17.4	82.6	0.0	0.0
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目							
		←2年連続でAの回答率が下がっている項目							

甲斐市では、家庭学習の目安として「学年×10分+10分」としている。小学生アンケート、保護者アンケートを見ると、「宿題を忘れずにしている」という設問において、約94%の子供たち、約96%の保護者が肯定的な回答をしている。これは昨年度とほぼ同様の結果であり、家庭での学習がほぼ定着している様子がうかがえる。しかしながら約6%の子供たちがC・Dと回答しており、家庭学習への取組のさらなる指導が必要である。

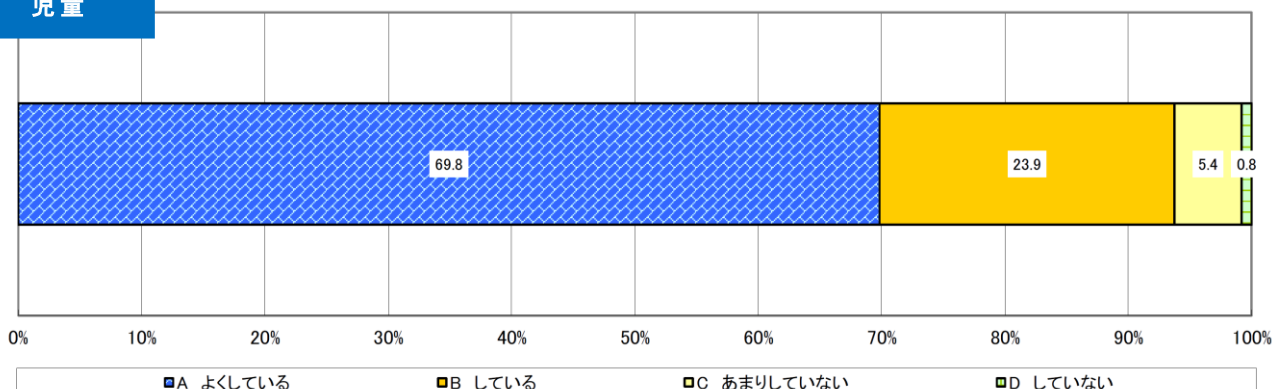
保護者

Q12 お子さんは、宿題(課題)を忘れずにしていますか。



児童

Q16宿題を忘れずにしていますか。



(2) 改善策

- ① 「やまなしスタンダード」で求められる「めあて(=授業の評価規準)」の明確化を意識した授業づくりは定着してきた。今後も学年主任を中心に各教科の指導内容と学習評価を再確認し、新学習指導要領が示す「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を意識した評価を明確にして授業を行うようにしていく。
- ② これまで各家庭に配付してきた「家庭学習の手引き」を見直し、より家庭との連携を深め、家庭で活用しやすいものにしていく。また、各学年では自主学習ノートの紹介などの工夫をしているが、今後も個別懇談、学年総会、学年だより等を通して、自主学習の取組方法など、各家庭への啓発に努めていく。

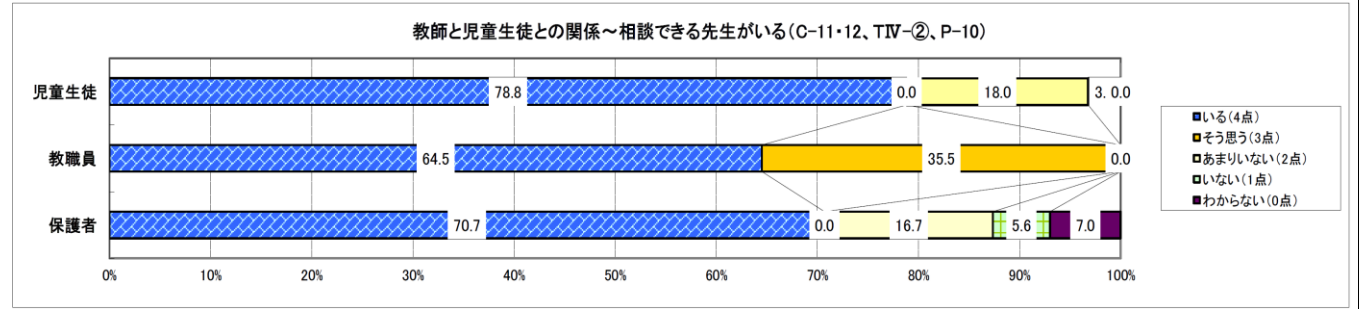
IV 生徒指導について

(1) 達成状況

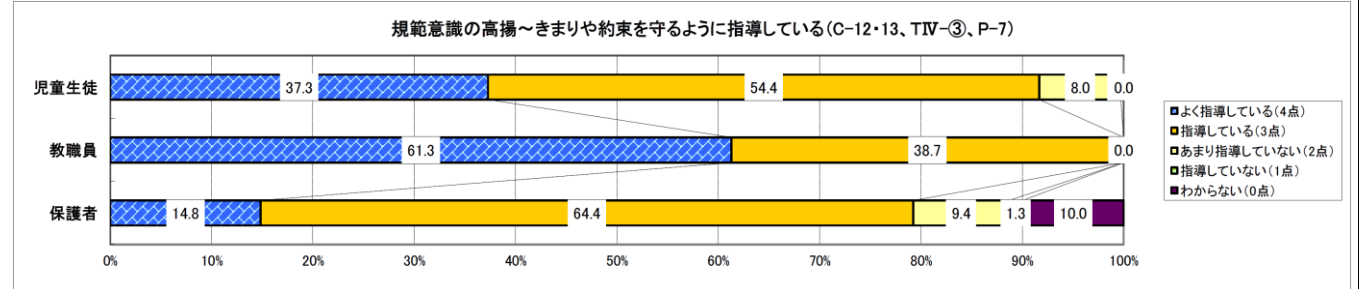
生徒指導についての達成状況についても、肯定的な意見の回答率は高くなっている。本校の教職員が、子供たちに寄り添い、きめ細かな児童理解の上で教育活動を行おうとしていることがうかがえる。その成果は子供たちや保護者の意識にも表れており、学校に相談できる先生がいるという設問に対しても、よい結果が表れている。

一方、設問2の回答が低くなっているところには、もっと児童に関わる時間を確保したいという思いが表れている。設問5の回答に見られるように、児童からの相談が増えたのに対し、対応する時間が足りないという実態が表れている。

番号	Ⅳ 生徒指導について	令和3年度				令和4年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている。	75.0	25.0	0.0	0.0	53.6	46.4	0.0	0.0
2	あなたは、児童生徒理解のためにコミュニケーションを図っている。（対：児童生徒）	83.3	16.7	0.0	0.0	64.5	35.5	0.0	0.0
3	あなたは、児童生徒の規範意識をはぐくむ指導に取り組んでいる。	70.0	30.0	0.0	0.0	61.3	38.7	0.0	0.0
4	あなたは、キャリア教育（キャリア・パスポートの活用・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。	37.0	59.3	3.7	0.0	37.5	58.3	4.2	0.0
5	あなたは、問題行動（いじめ、不登校等）の早期発見・早期対応ができています。	57.1	42.9	0.0	0.0	48.3	48.3	3.4	0.0
6	あなたは、「明るく元気な竜の子15か条」を意識して、生徒指導に取り組んでいる。	67.7	32.3	0.0	0.0	56.7	43.3	0.0	0.0
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目 ←2年連続でAの回答率が下がっている項目							



- 児童保護者…相談できる先生がいる。
- 教職員…児童生徒とコミュニケーションをとっている。



また、今年度も「明るく元気な竜の子 15 箇条」についての設問においても、比較的、高い意識をもって取り組んでいる様子がうかがえるが、少し A の回答率が低くなっている。児童と児童との良好な関係と規範意識の高揚は、どちらも学習指導上の基盤となるものであり、規律ある生活習慣や学習習慣の構築が、確かな学力の育成には欠かせないものである。今後も子供たちや保護者にも伝わるよう、継続して取り組んでいく。

一方、保護者アンケートで「学校は子ども達に学校以外でも挨拶をするように指導をしていると思う」に対する回答は、昨年度より 5.3% 低下している。地域からも挨拶が少ないことを指摘されているので、生徒指導や児童会活動を軸に、家庭や地域の協力を得

ながら、児童が主体的に取り組めるよう指導を重ねていく。

（２）改善策

- ① キャリア教育等については、各教科、領域において、基礎的・汎用的能力の育成を位置づける必要がある。これまで取り組んできている指導内容が、十分にキャリア発達を促すことができていると実感できていないことに起因していると考える。

「キャリア教育」は、進路指導や職業教育だけでなく、各教科や総合的な学習の時間、特別活動など、学校教育全体を通して社会参画意識を高める教育活動を行ってくものである。日々の係活動や清掃活動も丁寧に取り組むほか、外部人材を積極的に活用したり、校外学習やオンライン学習の取組を行ったりする。また、キャリアパスポートを効果的に学級活動の時間の中に取り入れ、夢や志をもって、子供たちがキャリアプランニングできる力の涵養にも継続して取り組んでいく。

- ② 子供たちの問題行動については、そうした行動に繋がらないよう、日々の関係づくりが大切である。児童が安心安全に登校できる環境を提供し続けるよう、児童の居場所のある学校・学級づくりに邁進していく。問題が生じた場合には、教職員や保護者等による早期発見と早期対応が何より重要である。素早い対応ができるよう、SC や SSW、市の子育て支援課、県の児童相談所とも連携しながら、全教職員の共通理解のもと、学校全体として組織的に対応していく。また、児童とふれあう時間を確保するために、諸会議や行事の精選を行い、校務効率化を図っていく。

V 地域との連携について

（１）達成状況

今年度も、コロナ禍の中、外部との連携した多くの事業を以前のように実施することはできなかった。このような状況下においても、保護者や地域住民による、毎日の子供たちの登下校の見守り等、様々な場面で協力を得ることができた。

学校の教育活動の発信については、Aの回答率が81.3%であり、昨年度に引き続き高回答率であった。学校開放が制限される中、学校だよりやホームページを通して地域や保護者に迅速、確実な情報発信を行い、説明責任を果たすことができたと考える。

PTA、地域連携に関するAの回答率が昨年度よりも少し向上している。以前のような地域の方の授業への参画には戻っていないが、できることから再開している。「運動会」においては、本年度もPTA本会役員を中心として、積極的な協力を得ることができた。参観者についてはまだ制限があるので、再開を望む声が高い。「竜小協力者会議」等の地域連携事業については、後期に参集できるようになった。地域の方を含め、本校の教育活動への理解を求め、意見収集に努めることにより、よりよい学校運営を行っていく。

番号	V 地域との連携について	令和3年度				令和4年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。	26.7	70.0	3.3	0.0	38.7	54.8	6.5	0.0
2	あなたの学校は、保護者や地域の願いに応えるため、学校に対する要望等を聞くなどの機会を設け、情報収集を行っている。	63.6	36.4	0.0	0.0	32.3	67.7	0.0	0.0
3	あなたの学校は、学校の教育活動について、たよりやホームページを通して保護者や地域に広報している。	84.8	15.2	0.0	0.0	81.3	18.8	0.0	0.0
4	あなたは、PTA活動に積極的に参加している。	42.4	57.6	0.0	0.0	43.8	53.1	3.1	0.0
5	あなたの学校は、地域・保護者と連携し、児童生徒の安全確保に努めている。	78.8	21.2	0.0	0.0	65.6	34.4	0.0	0.0
6	あなたの学校は、地域協力者へ情報提供を行い、学校・地域の教育力向上に努めている。	62.5	37.5	0.0	0.0	61.3	38.7	0.0	0.0
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目							
		←2年連続でAの回答率が下がっている項目							

(2) 改善策

- ① 学校からの情報発信については、今後も継続して、学校だよりやホームページを積極的に活用していく。また、本校は、保護者への連絡手段として安心メールの加入率が100%で、学級連絡網を廃止している。個人情報保護の観点からも意味のあることである。安心メールとホームページを連携させることで、より効果的に情報を発信し、開かれた学校としての説明責任を果たしていく。なお、より活用しやすいメールシステムの構築に向け、現在、準備中である。各種たよりをメールに添付して配信できるため、確実に保護者の手元に情報を届けることができるようになる。令和5年度には、新システムによるメール体制に切り替えていく。
- ② PTA活動は、多くの会員が積極的に参加し、児童にとってよりよい学校にしていくことが大切である。今年度、PTA活動への保護者の参加意識は向上しているものの、コロナ禍でまだ十分に行うことができなかったPTA主催行事や地域と連携した取組について、これまでの実績を確実に引継ぎ、活性化を図っていく。

VI 学校の特色に関して

(1) 達成状況

どの設問においても、肯定的な回答は高い。ただし、昨年度と比べて一つ一つの回答率をみると、全ての設問において、Aの値が低い傾向にある。読書習慣を身に付ける指導や子供たちが主体的に取り組む児童会活動、ICT機器の積極的に活用した授業実践は、本校の特色として継続して取り組んできた経緯がある。本校の特色をいかに継続・発展させていくか、今後も全校体制で検討し、指導を重ねていく。

ICT機器の普段使いは浸透している。より効果的な活用場面を増やす実践を重ねてい

るところである。個人スキルに留まらず、学年全体で活用スキルを上げるよう、今後も取り組む。

番号	Ⅵ 学校の特色に関して	令和3年度				令和4年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	児童が積極的に「読書活動」に取り組むよう、指導に努めている。	60.6	39.4	0.0	0.0	40.0	60.0	0.0	0.0
2	「児童会行事」に、児童が進んで取り組むよう、指導に努めている。	66.7	33.3	0.0	0.0	43.3	56.7	0.0	0.0
3	状況に応じて、日課表の見直しや時間割の工夫を行い、授業時数の確保に努めている。	63.6	36.4	0.0	0.0	51.9	48.1	0.0	0.0
4	教育機器（クロームブックなどのICT機器を含む）を、積極的に取り入れた活動を行っている。	63.6	36.4	0.0	0.0	51.9	44.4	3.7	0.0
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目							
		←2年連続でAの回答率が下がっている項目							

（２）改善策

- 今後も、校長が示す経営方針を教職員が共通理解し、学校の長所を伸ばし、短所を改善しながら学校の特色化を図っていくことが大切である。教職員が入れ替わり、担任学年が変わっても、組織的な対応により、本校の特色を生かす指導ができるようにしていかなければならない。

Ⅶ 創甲斐教育について

（１）達成状況

「相手のよさを自分の言葉で表現する」取組について、「褒め言葉のシャワー」の取組に改善を加える段階に入ってきている。各学級の取組にとどめるのではなく、全校体制での取組を工夫し、継続していく。

設問３については、設問の意図が伝わりにくかったことがある。保健だよりや給食だよりでは、家庭への啓発資料を含めるなど、工夫を重ねてきている。運動習慣についての啓発を、学年・学級だよりでもさらに進めていく。

引き続き、言語能力の向上、よさをみとる教育活動の推進、体力づくりの取組の充実を教職員一丸となって取り組んでいく。

（２）改善策

- 年度当初の職員会議で周知はしているが、さらなる具現化を目指し、どの学級、学年においても、指導が一貫して行われるように、「聞き方、話し方スキル」の確認や、「ほめ言葉のシャワー」の取組方法等について確認していく。
- 各教科における言語活動の充実に向けた取組について、校内研究で確認する時間

を今後も設定し、年度当初に再確認しながら授業づくりにあたっていく。

番号	Ⅶ 創甲斐教育について	令和3年度				令和4年度			
		A	B	C	D	A	B	C	D
		とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない	とてもそう思う	そう思う	ややそう思わない	そう思わない
	質問内容	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%	回答率%
1	様々な言語活動を通して、言語能力の向上に努めている。	63.6	36.4	0.0	0.0	53.3	46.7	0.0	0.0
2	学級活動において、相手のよさを自分の言葉で表現する取組を行っている。	69.7	30.3	0.0	0.0	46.7	53.3	0.0	0.0
3	おたよりの発行等を通し、体づくりや運動習慣づくりに家庭と連携して取り組んでいる。	66.7	33.3	0.0	0.0	19.4	71.0	6.5	3.2
凡例		←前年度よりAの回答率が上がっている項目							
		←2年連続でAの回答率が下がっている項目							

3 まとめ（成果と課題）



Ⅰ 学校教育目標・学校経営について	
成果	課題
◎学校教育目標を基にした学校経営と、それを受けた学校運営、教育活動の実施	●カリキュラムマネジメントによる確実なPDCAの実施と、教育課程の見直し ●学校体制で取り組む特別支援教育
Ⅱ 学校運営について	
成果	課題
◎教職員一人一人の主体的な参画	●危機管理マニュアルの的確な運用と改良 ●さらなる業務効率化による働き方改革 ●校内研究とリンクした日々の授業改善
Ⅲ 学習指導について	
成果	課題
◎基礎・基本の定着を図る授業の実施 ◎学習規律の徹底やよさのみとりによる学びに向かう姿勢づくり	●観点別評価規準の指導と評価の一体化 ●家庭学習と連携した学びの啓発
Ⅳ 生徒指導	
成果	課題
◎子供に寄り添う生徒指導やきめ細かな指導に対する保護者、児童からの信頼	●社会参画意識を高めるキャリア教育の実施とキャリアパスポートの効果的な活用 ●安心安全な学校・学級づくりの継続と、問題行動の早期発見・早期対応のための組織連携 ●「明るく元気な竜の子15箇条」の改良
Ⅴ 地域との連携	
成果	課題
◎学校だよりや学校ホームページによる迅速、確実な情報発信 ◎本会役員を中心としたPTAからの積極的な協力	●安心メールと学校ホームページのより効果的な活用 ●PTA主催行事の取組の継続と改良復活 ●協力者会議を中心とした地域との連携の活性化
Ⅵ 学校の特色	
成果	課題
◎校長の経営方針の共通理解 ◎ICTの積極的な活用	●長所を伸ばし、短所を改善することによる特色化 ●児童主体の児童会活動や読書活動の継続と発展
Ⅶ 創甲斐教育について	
成果	課題
◎各教科等における言語能力の向上を目指した授業づくり ◎家庭と連携した健康な体づくりの推進	●教職員研修による一貫した指導体制の確立 ●よさのみとりをすすめる「ほめ言葉のシャワー」の改良 ●運動習慣を身につけるための活動と家庭への啓発

来年度以降も「チームドラゴン」として、特色ある、地域の学校としての役割を果たしていけるよう、保護者や地域と一体となり、全教職員一丸となって取り組んでいく。

